温故知新録抄　五止

和書門　類
三〇九五一號
函
架
五冊

内閣文庫
和書　類
三〇九五一號
一五五函
二〇架
五冊

史
一五三

内閣文庫
番號　和　30951
冊數　5（5）
函號　155　391

綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

閣
101

# 温故知新録

抄録

国立公文書館
National Archives of Japan

修史館書印
日本政府図書

一 天和三亥年三月松平紀伊守家来深津弥左衛門召捕候切支丹類族之者
治兵衛 浪人 清兵衛

覚

一 切支丹類族之者共御尋ニ付不届ニ付松山十左衛門
右同人共其外方共太田備中守御預ケ
申候

一 切支丹類族之者ニ付御預六人并類族十人御預ケ置候
同人共被仰付候御預ケ分ニ付

三月十三日

右之者共切支丹之者ニ付類族不届
御当分被申付候仍如件
申上候

内閣文庫

一 右漂着人御預ケ之節ハ其所之者共
取計之

一 此外人数船中八部船頭并乗組之者
水主之者共乗組候ハヽ船頭并水主之
内近所之者壱人ツヽ差添可申候事
附り 江戸ヘ一応可相伺

一 右異人御預ケ之節ハ宗旨ニ付出役水主番之事
附り 外方

一 船中ニ而病死仕候ハヽ其所ニ而
宗門之儀等相改其上船中之死骸
ハ大積り候ヘハ一応伺候上

一 船中病死有之候ハヽ其所ニ而
一通り八部死骸之儀一紙

一 宗門等之儀ハ役人立会之上取計可申候
其上ニ而船中ニ而

一 右異人ニ船頭并乗組之者ハ於其所ニ
宗門改之上船中之者共仕置可申候
右之者共一応申上候上取計可申
其上ニ而

一 船中ニ而病死人有之候ハヽ人数

一 役人

一 医師

一 番所

一 足軽

右何人程ニ而候ニ付
相伺可申候

一 於是ニ而病人在之候ハヽ京大坂之医師並参候者
可申付候
手医師之義ハ茂可参候事
一 於是ニ而病人死候ハヽ所之作法ニ可申付候
程ニ可申付候

二月十八日

毛利綱貞

覚
一 出船人数并家来八百余人船数并遣置候様ニ支配
小荷物等積置候者
一 面々之荷物人々為改通可申候

一 此所之医師ニ被仰付可申候
一 大事之病人有之候ハヽ早々可申候
一 病人ハ弥可被仰付候
一 屍取揚其方ニ而葬可申付候
一 禁制之品者堅く可携候事相改可申候
一 船之内外ニ有之候ハヽ可申付候
一 右之船中之者共之内ニ而知音之者有之候ハヽ可申付候

二月十五日

毛利綱貞

覚
一 今度御用ニ付出船之人数之内ニ而
病人有之候ハヽ早々申付候事

一 御部屋中之内御錠口番 右筆
御書物預 御坐敷 取次 御廊下番
一 御伽之御役人御次御修行 右筆
御城代 御広敷御番之頭 坊主
御下男 上年

一 御部屋中之御座敷之人数覚

御役人 三人
医師 二人
中小性 八人
歩行 八人
書役人 二人
草履取 二人
料理人 四人

内二人 月付
内二人 月付

足軽 二十人
六尺 十六人
上下人数九十六人

右書付御部屋様御附之分
御部屋人持参不申候

一 上之御部屋之事 但御本丸
御披露之節 御広敷 上ケ候而
座敷ニ而天井御下ケ

一 次之御部屋之 但大切
天井御上ケ右之通被下置
御取次御部屋上ケ書人衆

一 弐之間 天井はりいまにあり

一 廊下之間 右家之外ハ壊払也し

一 右之外ハ見絵書不之ヶ所 但見絵之通り

一 延宝八年
安房守様御代ニ余ヶ所御普請被仰付候

豊嶋下屋敷御普請
一 東西 十五間
南北 五十間
中根大隅守組 青木伊織

表五番町右御普請
一 東三十二間 西三十間
南十四間余 北十五間程
松平与左衛門組 大橋平太夫

四谷大番町右御普請
一 東西十六間
南北二十間
近藤九之丞組
石谷市右衛門組 渡辺十太夫

築地本願寺御普請
一 東西十四間
南北十三間
毛利安房守

一 喜多村伝兵衛 豊岸下 拝領屋敷
　毛利安房守江上ル
一 大橋平右衛門 表わ当所 拝領屋敷
　喜多村伝兵衛ト替ル
一 渕石十右衛門 守谷大書所 拝領屋敷
　大橋平右衛門ト替ル
一 毛利安房守 殿遣手続ニ付 拝領屋敷
　渕石十右衛門ト替ル
右者御尋ニ付書付差上申候
　延宝八年申ノ正月十九日

一 正徳二壬辰年 御府内書留
　覚
御所
一 上屋敷 豊岸下 萩小路
　拝領弐千九百二十弐坪余
　右同住宅而
一 下屋敷 白金村
　拝領五千七百九十六坪余
　給合所 六ヶ所
一 町屋敷
　拝領三百八十七坪
　表口十八間余入余
　裏行 二十弐間余
　町奉行支配
　家来保田等致居申候

右之外抱置候領地并所々置候自分之家来
家来共之儀無御座候其外記録之趣相認候
書面之通相違無御座候以上

正徳二壬辰年七月五日　　毛利周防守

中川淡路守殿
嶋田佐渡守殿
天野近江守殿
渡辺外記殿

一 高慶公御事跡

一 延宝三乙卯年四月二日於豊後国森ニ御誕生
御幼名千代熊君後駒十郎と御改之事

一 貞享四丁卯年三月九日豊後国森御発足
御父君御病気ニ付御見舞通清公ト トモニ御旅行
四月十二日通清公御逢被成ト申御十三歳
之事

一 翌元禄元戊辰年
高久公御養子被仰付七月廿九日御養子ニ
被仰付御十四歳之事

一 同年九月十八日初而　御目見之事

一 同二己巳年十二月廿七日御叙爵御官名
周防守様と御改被遊御十五歳之事

一 同四辛未年六月廿日ゟ十月二日迄御小姓組
ニ而 坊主御表向御勤御扶持七ヶ年

一 同六癸酉年四月廿二日ゟ同七甲戌年二月
十六日迄御小姓勤御再勤其後表向御勤
御二十ヶ年

一 元禄九丙子年五月八日

一 高慶公五ヶ条之御定書

五ヶ条

一 学文ハ性学ニ無之候 不苦乃理申 我学ニ励
可申事

一 武具ハ事加之ち我身ニ不応かへ上ヶ候ても御法ニ遣し
可申事

一 軍法弓馬剣術槍術柔術 砲術水練（練カ）
其外都而武術ハ怠る間敷 身之鍛錬出し
可申事

一 酒宴并相撲狂言揚弓能囃子操狂言琴三味線
鞠詩歌碁将棋 双六 謡舞 平家琵琶
不好して淫婦（求）忠義事

一 佛非行師他之宗並ニ録有之誘引改宗致候
者出來候ニ付我行者人共ニ相留置候へハ手堅
改リ相済候ニ付合[illegible]可申一ニ致可申候
事
右之通可相守者也
享保八癸卯六月中旬　　高寛書

安永五丙辰年四月日光山
御社參御留守中御家中之面々勤方諸事
申渡書

覚

一 當四月十三日日光
御社參ニ付御留守中御家中之面々
勤方諸事申渡之通
一 来十三日夜九ツ時より御門留ニ付表御門ハ小路山際
[illegible]小人共ニ相詰[illegible]代り合[illegible]相詰
入候ニ付[illegible]出入ハ所々[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 御目付方ゟ差出シ候一件ニ付 御組頭より
御用人代り合之儀被仰付候て
出し候え 清筆メり本の通振合可申候

一 御奥方御先手之儀 御奥向出仕ニ付 被仰付 組頭より
御留守居中代り合之人ニて 御用番御組頭出候え

一 清筆メり本の通振合可申候

一 園谷孫兵衛
御徒頭孫兵衛儀 此度病死ニ付 御用番七右衛門
之も御通り出候え 清筆メり本 入念振可申
中候

一 谷川孫兵衛
中野孫四郎儀 病気ニ付 清筆メり本の通振合候え 清書可申候

一 古川作右衛門
公儀御用向御尋之節 清書可申候

一 一月之一番ニ出候て 御組頭衆中ニ清
書御達し ニ付御届一のこし

一 同月 代々之通 御用人 殿

一 清筆之儀 被仰付 御用番 御同人 代

一 清筆メり本入念振可申候

一 御組頭 御用番 御組頭衆中ニ出候て 御書付

一 組頭 御用人 一同 御届

一 御用番 御伺 出候え 入念振可申候

一 御組頭 御用番 御通り 出候え

一 御広間 之儀 御届 御組頭 御同人 御届

一 御書付 之通 出候え 入念振可申候 第一

一 御組頭出候て 御組頭 古川作右衛門

一 右之通 御届一のこし

御組頭 殿
御組頭 殿
御組頭 殿

足軽七人　小人

一　御普請并大小溜桶之儀ハ火消道具
　川除堤之儀ハ御伺之上被仰付候
一　大水洪水
　稲荷前　　南御門内ニ而御座候
一　田畑之儀ニ付当御代官所御勘定所ニ而
　百姓共持高之儀ニ付取立候儀御座候
一　河村前御役所御見分之上被仰付候ニ付
　百姓共ゟ入用之儀ハ足軽小人入用相掛
　御座候御用之節御勘定所ニ而御座候
　右十一ケ村之儀ニ付御届申上候
一　新田立会御普請田地持主儀
　御普請中之儀御座候ハヽ　御勘定所相掛
　百姓共ゟ出入ニ相成候ハヽ御届申上候

一　御普請中之儀代官所ニ使ニ相出し候ニ付
　右之通り御届申上候　右之趣相心得
　可申候
一　風雨之節ハ村役人共ニ御見分御届申
　上候様心得候ハヽ御役所ニ御届申上
　右之段　御勘定入用之儀御座候ハヽ可申

申
七月

一 寛政三亥年十二月豊後國佐伯ニ而[illegible]孝行者
[illegible]

毛利伊勢守領分
豊後国海部郡[illegible]
古市町丁人
[illegible]
[illegible]
六十四歳
母年[illegible]

右之者[illegible]老母[illegible][illegible]孝[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]母[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
生涯[illegible]人[illegible]享保六巳年十二月[illegible]
[illegible]

日國播[illegible]
[illegible]町丁人
佐兵衛
六十[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

其孝心之もの孝母へ之事共ハ不及申
申ニも此上ハ右之段々不存なし傳受候
母ハ年寄候而も言語ニ不足仕候得共母子
随身之大体平生書ニ書入置候得共不筆ニ
母ニ書付として大切仕置候先へ
若労等ニ付而も苦労悦居候而寄
歎入候、元来老母並其外之者付入
少〻相応之候而母ニ不相当可申儀ニ付
隣家等ニ而も生涯相届ケ南雲郷ニ而
ニ出生仕候、毎老母ニ相成候而も彼衛
ニ而も余り世話ニ仕候、養生仕候
家業ニ而も不叶田畑母ニ而致し候もの
とも是而も相成右之間柄ニ付身上ニ而も
何事ニも相応を損申候ニ付之者共ニ差
抽而身分見聞之通与を候身ニ付之
此段御尋ニ付申上候大切之儀

寛保三亥年十二月二日病死
一 数五十四年ニ而病死
日光御領村名丹波浦
百姓 源太郎
七十三歳
寛保元酉年卯
右之者文学深業ハ勿論其心ニ応し一統奉行致し候所
右源之丞身儀も生涯中ニも一日も無ニ
相勤其身御国家ニ而万事相勤候
候而もおゐて相得可申候、右家ニ而相続致
相勤ニ付身分相応之家ニ者候得共
先相続之ものとも何れも相応ニ而相勤
候而も許不申候ハ相成丁寧ニ而候
相勤候節ハ相続仕候、右保之丈寄候
御用之節ハ相勤候而相勤申候而
哀候ニ付被下置候而相成候儀ニ而御座候

之儀ニ付右為褒美出座之上被下置
安永七戌年十二月遠江守殿被仰渡

同国中ノ村枝郷
百姓 新三郎
當戌七十歳

一 銀五枚 其身江

同国同村枝郷
百姓 吉兵衛
當戌六十三歳

一 銀三枚 五十八才

右両人之者共大生得ニ而實躰ニ候 多年農業
出精いたし候 其上兄弟申合 伯父
相続方へ之農業励 農業出精 村方
百姓共家業一統励候様 村中風儀
宜敷相成 無余儀 奇特之儀ニ相聞
候 右之趣 被仰渡之節 申上候

明和年中より精出し 万事ニ付 諸事 出精 格別
出来候ニ付 奇特之儀 相聞 名
主共より 願之通 被仰付 遠江守殿 御褒美
被下置 安永二戌年十二月 右之通
被仰渡候

右之通申上候

安永三午年十二月

毛利讃岐守家来
吉川 某

毛利讃岐守御預所奉行
奇特之者共 褒美 被下置 候 村々
右之通 申上候

午十二月

毛利讃岐守家来
吉川 某

文化六己巳年御届書

森川出羽守殿御領分
同国千葉郡村田村
百姓善兵衛女房
さの
当巳年
三十一歳

右善兵衛女房さのハ同郡桂川村百姓長兵衛娘ニ而
十七の年嫁シ善兵衛と夫婦ニ相成男子壱人出生いたし
其後舅姑ヲ大切ニいたし舅ハ七十八歳姑ハ七十六歳
ニ罷成候ニ付而ハ何事も都合宜キ中ニも舅姑ハ病身ニ
而日々手当等いたし候処宝暦十二申年
生レ候而夫善兵衛ハ五ヶ年已前より病身ニ罷成
候ニ付家業ヲも営兼候ニ付一家中申合取計候
家内ニ而夫婦並ニ忰壱人舅姑都合五人暮ニ而
一体不勝手ニ候得共舅姑ハ勿論夫善兵衛ヘも孝養ヲ
尽シ諸事心ヲ用ひ仕来り候ニ付何卒先々迄不
舅姑ハ勿論老人之事ニ付さのハ昼夜付添
家業ハ勿論ニ而孝養いたし候ニ付右之趣申出候
出来兼候ニ付家内相談之上右さのヲ見立夫
亦入舅姑ヲ扶助いたし夫ヘも手当致し家ヲ出し
出し候処病気ニ付何分出来兼候得共夫之中小
家内ニ而舅姑ヲ大切ニ致候ニ付右之趣奉申上候
少々ハ雑用ニ而舅姑並夫ヘも孝養いたし候
手当いたし舅姑並夫ヘも尽シ其上家業ヲ
少々宛ハ心掛候ニ付無之候
兼而御褒美可被下候段
何卒舅姑ヲ大切ニ仕候ニ付中宜敷
其上舅姑ヲ大切ニ致候ニ付
奇特之者ニ御座候ニ付此段申上候以上

少茂相違無之候て第二條寛政六寅年二月
十七日右之通

同断
右村百姓
文化二乙丑
三十郎
新助
宇吉事
同年
三十七歳

右之者共は前書村百姓八右衛門倅公事方ニ而
御年々諸堤下船役所之人今井新十郎方ニ
書上候ニ付今井新十郎家督之何所今井新十郎様御ニ
二十年以前刑家ニおゐて相続仕大石右衛門
入所江戸表方精出シ今井新十郎
侍江御通り別段請書今井新十郎

右之者相続ニ付今井新十郎商売相続
少茂無相違候様申付候ニ付而三新十郎ハ
打続居候て書付方茂見新十郎方ニ
少茂相続川村当人之紫籬寛卿
始メ其御所之無事之有様ニ御座候
之人今井新十郎申渡候宅可之ニ書付候
世話も致候之ニ付諸事体之致候ニ付
今十年前家内之者共精ニ出候ニ付申上
相成候ニ付候而御用之事務ニ而打角
体之のミあい付候処主之多候利害
しけのり之様子ニも承知致し候ニ付
要之商売方ニ付其之ニ付ニ付あり候
之候様ニ致候ニ付家居十年年
様ニ取扱候今十郎事も相続
いたし迅速ニ出来候而家業相続いたし
白人候申候ニ付而是ニ付少年相
商ひ之年迄ハ御座候今十郎ニ申付同所

然ル処京都五条新町ニ住居致し候処
河合屋 加賀守様御支配今井宇右衛門方ニ
同人倅兵吉と申者幼年より奉公致し
奉公致し候処京都二条御所ニ勤居
有之候 文化二巳年 十月宇平治家内ニ死去
右兵吉之無高貴何某様家来ニ相成候由ニ而
宇平治ニ申付度々無心申来候ニ付
[illegible]三月無之と申承知致し
主人ニ難渋之様子委細申聞置候事
諸入用等相掛り候ニ付卯年ニ至り右知
相分兼人相[illegible]事相成第一兵吉方
[illegible]兵吉倅宇平治ニ[illegible]
其上又高貴方[illegible]無之
[illegible]家内[illegible]兵吉[illegible]
右[illegible]候得共[illegible]
其[illegible]宇平治[illegible]

然る処ニ而加 今井宇平治方ニ而[illegible]相成候
之無高貴ニ而[illegible]宇平治方へ
申し付候段[illegible]判[illegible]今井宇平治
右書付[illegible]委細[illegible]
宇平治[illegible]相[illegible]
其上兵吉[illegible]今井宇平治
家内[illegible]兵吉[illegible]何様[illegible]
[illegible]高貴方[illegible]何事
奉公致し[illegible]宇平治
始末[illegible]何も[illegible]
[illegible]今井宇平治
兵吉[illegible]
高貴方[illegible]
之[illegible]
御[illegible]
[illegible]今井宇平治[illegible]

孫八抑年ゝ別ハ夫人ゟ中絶し手厚く高貴方
も承り候し候ハ出て成よ於まて可之ゝ猶亦
夫婦ゟ振之〻御ハ右之通之事ゟ實意ニ於し
奇特成ニ付御聞済ニ付 吟味之上御褒美
在所より願出候ニ付ニゟ五ヘ貴目ニ於ゐる
新町ゟ貴目銭被下之 文化二丑年 十一月十三日
之事也

上之郷村内 北日百姓
三右衛門女房
ゆき
文化二丑
二十六歳

右三右衛門女房きよハ同郡中村百姓方娘
而六ゟ中おゐて嫁ニ二十年以前ニ三右衛門嫁し
子供も人出生ニ三右衛門ゟ家内取扱ひ方娘ニも
りいつも右之事も如何之様子作年増ゟ出して
ま之様ニ候し右之様ニ相老ゝ男姑ハ九十

ま右家事ニ附外まて衆ゟ之女房之人ニまて
三右衛門か於御かへし候ニ相見ゟ人ニ而まて
御座候ゟく而有之様ハ三右衛門ゟ庭之れわつゟの
思ひ於ゐて之事ニ仕事にてし而も相出し候ゝ
家内之者ハ右偏相勤方 候由之様なく
之出て 男老之ハ八十八歳まて老養ゝし
右家族ゟ之ゟ病人ゟ取扱ひゟ人ゟ気ゟ候之
中出て右ニも 御さゝ之 何事叶ゝ取扱ひ
いまし候ゆゑの嫁ゟ成 之儀しゝゟより
うし之 姑ハ七十四歳七年以前ゟ補仕ゝ病之
ハおゐ叶ひし右相勤御ぬ 御座候ゝ中ニも
ま娘ゟ候し 先ゝ貴賤ゝ之 好ゝ果ハ向之命の
之候相まて 丁寧ニ世話ゝし何事にもすゝん
夏ハいゝ水ゟも行届候ゟ 冬まて 悦あき取扱ひ
拭ひ取りゝし 世話仕候も 何ゝ之中 右之ゟ病来
候事ゟ万念なく 三右衛門ゝして 男姑も
続ひ嫁之情ニ於ゐ之まて まて老之も 無病而候

いしし見およひ所持之文時候とて是さやいけるに
御達有之候ニ付御褒美として銭五貫文
文化二丑年十二月十七日下され候

右之通被下置候旨被仰渡
右孫兵衛姉
おしの
文化二丑
二十八歳

太兵衛七歳之時より父太兵衛病身ニ付母ニ付添にて
養ひ候て病しあける女房婿も家内
三人太兵衛ハ七十四歳ニ相成女房ハ六十九歳ニ相成
中風ニ而打臥候て存命罷在候女房も日頃ニ而
老年ニ付病身ニて臥せり居候ても相励
婿其の続年若之事故殊ニ右五人組の者
ともに看病いたし候ても作候ても太兵衛ニ寄りそて
子供出生いたしては母親共老人をも勤めて

昼ハ昼中手習師匠の仕事いたし其日ニ至上
ニ而ハ手前之加留多の事ゟ御通し御ハ個ノ世話
又ハ小縄を以て浦方ニ而雪掃ハ力奴事なとし
くま寄手いたし母ハ七十年罷在初めより
其上も仕事もなし居ひより右衛門ゟ父金七
ゟ病もちゟ病気ニ而家内寄記とくハ出来
とて候ニ付右衛門とも寄申夜に悲き事をけ来り
候ハ病気ニも取かゝり修行いたし候ゟ申兵衛と
浅く候ニ付水好きまして人なとし難儀いたし
し候ニ付文化元子年ハ可風雨ニ付而民家
破損弱気の時節人もおかしく被仰付太兵衛病ニ而
かき流しなとも病気ニ而目合いたし候得共
又其所より逢ひ逢居り御役所ゟ寄附の儀
てまゝ者共ハ家督の方ハ仰と申上候
いたし候ハ右衛門ともにも村中一同感心
候ゟ子逢ひ拝申作罷出候ゟ相成候之に
御理解候とも云り申候ニ付申上候

一千石高七歳中外拘候者共之御感状被下候
之通御文写候処、以来右之通御覚書之
とて書付仕候　文化二丑年　十二月十七日御手もとへ
差上

右之通書上候以上

文化六己巳年

毛利美濃守家来
谷川角之丞

一文禄四年
豊臣秀吉公朝鮮御征伐之砌
高政公御軍功有之候ニ付御感状

八月十六日之書状并去月廿日之折紙令披見候、蔚山内東莱城
大明人数籠置候所、去十三日之夜致仕寄、十五日之夜
責崩候、首数千余討捕御注進之通
被聞召候、家中者討捕之首注文并鼻帳
到来候、粉骨之至候、御前之段太閤於申付
被成候、則被下置、其方者寄手先手之儀、随分
御褒美被下置候、猶石田
治部少輔・浅野弾正少弼可申候也

九月十三日　御朱印

毛利民部大輔とのへ

渡之部

一 諸方之渡 前々より有来候場所ニ而 於当所例
有来通可為 令羅之川々 渡可申事
一 風吹候節 或ハ出水之節者 大船ニ而 彼川々ニ而
御用之外 小舟并 旅人渡すへからす 出水之節者 通用
渡之事 令停止候事
一 おいて 諸方之もの 小舟ニ乗 城之 御用之外
乗船大船十四艘 渡 小舟弐拾艘 渡 申候
し 乗前 十二時 押通 申間 可申 例 申付
之 不遊申事
一 其外 旅人 のり舟之 渡有 御定 ...
御渡 ... 渡 ... 大船 おゐて ...
殿 ... 大舟 例 ... 申付 ... 申事

武家不寄何者 ... 乗船ニ 大方 ...
... 取 ... 渡 ... 申 ... 備 ...
... 渡 ... 大 ... 申 ... 無
... 渡 ... 船 ... 川
し事
一 中ノ例 ... 大 ... 所 ... 之 ... 渡
... 例 大風 ... 出 ... 船 ... 渡 ...
... 渡 ... 渡 ... 例 ... 可 ... 渡
渡 ... 渡 ... 舟
之小舟 大船 船 ... 申し事
一 大 ... 渡 ... 舟 ... 舟 ...
備之 渡 ... 申 ... 申 ... 信乃
先 ... 例 川 ... 渡 ...
仕 ... 上 此 ... 渡 ...
... 律 ...

九月十八日

松平佐渡守　三人
堀田中務少輔　安治
菅沼大和守
松平主殿少輔
菅沼三郎兵衛尉
菅沼大島守
加藤太郎之助

堀田大隅守殿
石川治部少輔殿
安藤出雲大膳殿
治部院

一　毛利壱岐守様ニ而
三郎兵衛殿之御家臣之内ニ在之初ハ源七郎八右衛門ト称候寛之
摂津守ニ三歳ニ而御家督之御別段御手厚之御方
相續十一歳ニ而御治世ニ付御出府被為仰付
江戸表ニ於而御役相勤候御方様ニ而

一　右源七郎八右衛門様ニ勤之哉
三歳ニ而本多上野介様酒井雅楽頭様御名前
御書付ニ　御目見ニ而二百俵七十人扶持
被仰付ニ而御役ニ罷成候御役料被下置
三歳ニ而御役ニ而御書院御番勤之
御出之事

一　御当人御知行高之寛永四年八月十五日
大御番頭之同尾村ニ而石見村ニ而　毛利

高水様 八十石兼ハ御前之兼務ニ付
ニ而蔵出有之 御書画様ハ不之遣置候由被為在候
事

一 蒼東院様 八ツ之御君様被為在ト申 盛名有之候
寛永十一甲戌年 御書院番衆 御番人ニ而之 元禄
元戊辰年 十二月廿一日 御移被為候

一 元禄年中
高厳公 大奥御小性ニ而被為御勤仕
常憲院様御筆ニ而御墨画ニ而被為拝領候
御画 蘆之鷹 之羽 御掛物 一幅
洛陽紙 御墨跡
一 錦先筆ト 御伝宇宙候
一 風流一字之天地人全御草織
一 天地菊島人全
一 萩菊地島人全
一 象牙大軸
一 絵古団

御口代ゟ伝候

一 壽ノ字御印籠 一

一 伊賀守高晴公御代寛文元丑年ニ八月
仙洞御所御新造御普請御用被仰付　依之同
年十一月廿八日御上京十二月四日参内　御拝領
被成候
一 同三卯年七月西上洛　御上京
一 右御手傳被仰付金ニ而御誂合 御所押繪之屏風
被成御拝領

一 金御誂合 一

但九尺屏風大サ六尺屏風 金子しるし
四方ニ二寸程アリ つてこ
一寸ノ筆花アリ 右筆跡アリ
クホミアリ 右クホミニ御紋
毛彫ハ四アリ 其外無紋
毛彫内チハ無地ニ
掛目三十三匁 六分アリ
ノ

一 源氏香盛 一箱
内大臣殿御所望人々御預之
右御源氏之外箱之御屏風之
之形南附キ之御子細ニ而御座候
何も御代々伝来之御屏風ニ有之
候所御座候 御文ニ掛リ常ニ相申候
然ニ候所ニ而有之候

右色紙筆者之目録

きりつほ 二條殿 摂政
はゝき木 鷹司殿 左大臣
うつせみ 大炊御門 右大臣
夕かほ 二条殿 前摂政
わかむらさき 照高院殿
末つむ花 梅井家
紅葉賀 曼殊院殿
花のえん 西園寺前大納言

あふひ 徳大寺前右大臣
さかき 花山院前内大臣
花散里 久我前内大臣
すま 円満院前大僧正
あかし 随心院前大僧正
みをつくし 九条殿 左大臣
よもきふ 鷹司殿 右大臣
せきや 葉室大納言
絵合 園大納言
松かせ 油小路大納言
薄雲 清閑寺大納言
朝かほ 中院大納言
乙女 大炊御門大納言
玉かつら 飛鳥井前大納言
初音 三条前大納言
こてふ 中山前大納言
ほたる 日野前大納言
常夏 正親町前大納言

かゝり火　勧修寺前大納言　野分　葉室前大納言

行幸　烏丸前大納言　藤袴　柳原前大納言

真木柱　清閑寺中納言　むめか枝　野宮中納言

藤裏葉　東園中納言　若菜上　今出川中納言

若菜下　花山院中納言　柏木　万里小路中納言

横笛　藪前中納言　鈴虫　平松宰相

夕霧　裏松宰相　みのり　中山宰相

幻　植松宰相　匂宮　千種前宰相

紅梅　白川三位　竹川　岩倉三位

橋姫　勧修寺三位　椎本　勘解由小路治部大輔

総角　今城中将　さわらひ　石井中将

やとり木　愛宕中将　あつまや　滋野井中将

浮舟　四条中将　かけろふ　難波中将

手習　七条中将　夢のうき橋　烏丸右少弁

御泉殿へ御寄附

一 合之内香合 一

角形大サ　長サ四方二寸五分　厚サ九分　内蓋
蓋外惣金字を彫　内ハ金梨地
内外梨地　描　八分
袋赤地錦

右依御所ゟ蔵直二箇廻年六月廿日
禁裏御所より御渡し　此ゟ傳ゟ勧修寺前大納言ゟ御泉殿へ
右御取計方

一 豊臣秀吉公ゟ頂戴之御朱印写 文化八未年
三月江戸表ゟ写来ル

豊後国代官所之内日田郡之内 弐千石令扶助訖
以右之内ハ父九郎右衛門ニ五百石并拾六百石ヲ弟
自分ニハ三千石無役ニ方七千石ヲ候得共知
全可領知候也

文禄四年
九月廿一日

毛利民部大輔とのへ

一 文禄五年五月十九日ニ御判ヲ以森民部殿ニ被下置候
御判物之豊後国日田郡之内 五百石被下置候ニ付御
三ヶ 御名民部大輔高重卜 御名乗被遊候
右御朱一同ニ御座候

一 高政公ト御名乗御改之年月日相知不申候
伊勢守ト御改名之義モ右同断

一 慶長三戊戌年十二月廿日 前田大納言利家卿被為
秀吉公御遺物諸大名へ被下置候
高政公御脇指御刀ニ而遊ス 当家御重宝之事

一 慶長十五年
東照宮尾州名古屋御城御築之節

高政公御手傳御勤ニ付

一 九十四軒　御所造　毛利伊勢守長高

二万四千七百石

豊後佐伯

一 寛文三癸卯年七月廿九日

仙洞御所御造畢ニ付於右之為

廿陵分

唐織　十巻

屏風　一双

一 同年九月十七日於

公儀左之通當月代ニ於寺社奉行御傳被下置之

一 小袖　二

羽織　一

白銀　三十枚　　御名代　浪隼人

一 小袖　二

羽織　一

白銀　二十枚

宛　　御家老　雲名兵右衛門

幸家中右衛門

一 小袖　二

羽織　一

白銀　十枚

宛　　御年寄中　豊田新之丞

大清兵右衛門

一 右之通之書冊當時迄伝り御勤役七家之内ニ有之
一 同之写差出し申候

一 天正十五年三月廿五日
秀吉公ゟ豊後国日田隈城二万石御拝領
有之候 諸役御除被下候中ニ而 文禄四年
被召上候 御兼帯ニ日田郡之内壱万石
御知行之趣ニ而 天正十五年ゟ文禄四年迄
年迄之年数九年ニ而 年月録往古ニ有之候事
日田御知行ニ天正十五年ニ 御兼帯之旨
以後文禄四年ニ知行被相見え不申候
事之

一 民部大輔ニ御改之義 天正十五年九月
之事ニ候

一 御名乗度重之文 高政ト改年月ゟ相知
不申候

一 慶長六年 日拝御内ニ津久見村御内ニ而被仰付候
其後御高之内無据 九月十日ゟ御附ニ而被出置
有之候事
　但右之訳御預地ニ津久見村大分郡ニ而御預
　有之候由ニ候

一 元和元年 大坂夏陣之節
高政公四月九日八日御出船被遊候 五月七日大坂ニ

御尋ニ付候事

一 高尚公御代
寛文二壬寅年
仙洞御所御普請御手伝被蒙 延宝三卯年
七月又御上京有之節 豫州三机御船繋之處
江府より御奉書到来 御上様御帰之處
直ニ御道中被相勤候ニ付之處 御首尾能相済目出
為御褒美之遣被成下候事

一 宝永四亥年十月四日依何表大地震ニ而破損
御城下之者迄及漸く日年 御所御修覆ニ付
御用田之新規之大乞之為 御修覆大切相勤候ニ付
之ニ付 御修損先年出来候大切之處 大破
大ニ損ニ被補ニ付 享保年中御修覆 然處

一 元文元辰年九月十六日御所火災ニ付御家中ニ
而御所割振被仰付候事

一、御甲冑　御代々御召服之元

長川院様
〆一　茶糸御具足
竹林院様
ト一　黒小札御具足
蘭渓院様
ト一　右御具足
南昌院様
〆一　井戸縅御具足
浄林院様
一　伎革御具足
〆一　黒糸御具足

一　蘭渓院様　右御具足
寛龍院様
一　右御具足
霊性院様
一　紺糸御具足

一 寛文八申年佐伯ゟ新知拝領被成候ニ付請取
之写

一 筆申入候 先頃ニ者元来新知之義ニ付拝領
得御意候 然者兵部少輔ニ而新知拝領可被仰
付旨ニ而候ニ付 [illegible]

一 主殿殿御屋敷 [illegible] 家老衆 [illegible]
佐伯 [illegible]
山田 [illegible] 市内三ノ丞方
面々 [illegible]

一 [illegible]
[illegible]
[illegible]

一 [illegible] 三人 [illegible]
[illegible]

一 [illegible] 家老衆 [illegible]
[illegible] 通 [illegible]

久留米 八
通貞

六月廿日

小笠原右京 在判

久留信濃守 在判

東泉中書殿

横川源太夫殿

西尾喜太夫殿

覚

豊後国海部郡佐伯村之内出羽入札ケ村

之検地永荒之石高并田畑之義永荒之分可相済

申ノ年 御物成山田清左衛門御内ニ而受取毎年之

御代官より御年貢之請取ニ而右之

毎年収納候て山本[illegible]

引之右村御蔵入御年貢

代官所より川渡之 右村[illegible]

のふり清左衛門ニ而 金子壱人一筋二

相済候様 此旨一ツ書付之

寛文八年

申九月三日

松浦頼右衛門

岩田喜兵衛

毛利市三郎殿

家中

猶以右之趣早々銘々寄合所へ向村
町々江も大家江相渡し差出
可申候、池田中より早々
寄何も於中廻し二而銘刊差上可申
候以上

一 筆啓上仕候、家来共罷越銘々申
合村々川筋之儀、御知らせ被下候
間、以来之儀者、御勘定所より御尋
之節者、御役所江罷越候而御
世話被下候様、江戸表より申渡
候得共、右之段御承知可被下候
右之段御承知可被下候

七月八日

山田庄太郎
判代

西谷喜太郎様
堀川清太郎様
幸兼右衛門様
人々御中

山田代官
山田庄太郎家来

松浦市太郎
鈴木太郎兵衛
村上庄太郎

竹内与兵衛

日

桜井与兵衛

右之人(?)通り山田ニ而御触流し山田代官ニ而差上

前田源右衛門預り甚八清右衛門後家当地出生
後家預り

覚

延享二丑年四條殿京都ゟ下
八月十八日御供申上下着
菱田右衛門妹
お梅き

寛保二戌年七月十七日
四條殿京都ゟ下着
三輪林右衛門妹
おきゑ

浮橋様ゟ御頼ニ付
四條殿京都ゟ六月十六日下着
荒河丹治伯母
おもよ

右同年同月同日
古川伝右衛門妹
おくほ
三輪林右衛門妹
おさと
菅沼右衛門妹
おさね
〆

宝暦三酉年六月十二日
四條殿京都ゟ下着
長谷川医右衛門伯母
おさの

宝暦十辰年二月十七日
四條殿京都ゟ下着
今井喜助伯母
おいく
〆

一毛利甲斐守領分長門國豊浦郡海邊江依漂着候

昊(异カ)國船漂流之節、其地着船之段、長崎表江被差

遣候ニ付、漂流人数并武器諸色員数取調差出

三通(?)井月(?)差出候様被仰付候事

但藤吉左衛門(?)

別紙之通

一 備頭　壱人

一 郡奉行　壱人

一 物頭　弐人

一 目付役　壱人

一 浦奉行　壱人

一 船奉行　壱人

一 仕着 十七人
一 給人 八人
一 筆談役 十七人
一 祐筆 十七人
一 医師 弐人
一 火術者 四人
一 徒大目付 十七人
一 貝役 十七人
一 大鼓役 十七人
一 小頭 六人
一 船頭 三人
一 足軽 百十九人
一 水主 九人
一 船漕者 弐十人
一 船大工 弐人

一 雑卒 凡弐百卆九人程
一 都合人数四百卆九人程
一 石火矢大筒小筒（筒）合数 七十九挺
内
石火矢 三挺
百目筒 弐挺
五十目筒 壱挺
三十目筒 弐挺
弐十目筒 弐挺
抱筒 九挺
一 小筒 六十挺
一 船漕 弐拾艘

一 船数　三千艘

内

関船　三百艘

小早　四百艘

小船　弐千四百艘

〆 了人浦　三艘

右之通人数并陸地之者共も無油断可致吟味

操出候様武器等も不残備置可申候

ト月 日 此段申上候以上

二月

毛利伊勢守家来

畑 弥次太夫

覚

一 武士　四十騎

一 鉄炮　百挺

一 長柄　五十本

一 小頭　十人

一 弓　四十張

一 組頭　十人

一 物頭　十人

一 夫馬弐千九疋　陸王諸方

一 歩柄ト下行　十人

一 旗指物　五張

一 徒士　四十八人

一 雑兵 五百四十人
一 目付 三人
一 御籏 五本
一 御馬印 壱人
一 御纏 壱本
一 太鼓 弐ツ
一 貝 弐ツ
一 御持筒 弐拾本
一 鉄炮兵 廿本
一 御持弓 六挺
一 小荷駄 百弐疋

一 佐伯備前武具奉行より差出書付
一 御籏 二十流 丹後絹地緋ニ紋白 金羽箔付
一 御小籏 廿流 赤青黄白黒ノ 五色ノ吹流 地絹紋絹黒ニ縫 おへし
一 御持小籏 五流 加賀絹地緋紋白
一 大御馬印 紺毛中ノ月 黒ニ金
一 御小馬印 黒ノ幣 黒ニ金

一 御小袖　紅絹綿帽子出し黒浪角ニ丸

一 御小袖　練ノ染言ノ字 御紋一

一 御指（指）物　練ノ縫寿ノ字 御紋一

〆一 御指物　摺緋ニ丸出し 御紋ニ

一 御母衣以上小幕之　金箔星貝紋 座敷赤

一 御手幕 平士以上小幕之　金之蔽文

〆一 御小姓小幕之　蔽文

一 御母衣指物　木綿ニ白丸ニ子指物

一 御手廻 平士指物　布黒地之白 出し白分紺ニ浪遣り

一 御小姓指物　布黒地之白 出し黒地切さき

一 御鉄炮人以上袖印　上ニ山形二筋白丸紋 白布ニ黒く

一 御小姓以下袖印　木綿ニ黒ニ紋

一　六組足軽頭　組之組二十五宛ニ御座候　侍分ニ而御座候

一　雑兵頭下　組無御座候　侍分ニ而候

右之通御座候付而御武具并書付差上
し申候無傳図面ニ御座候

一　御船手頭山下茂太夫ゟ差出し申候写

覚

一　正徳三巳年五月廿日軍船警固近江御渡海
御座候ニ付　御船手頭御蔵御被下候
候由

一　同年同月十八日同七月三日迄御渡海ニ付軍船
警固被仰付　御徒ニ而

一　鉄炮　十二挺

一　棒　十二本

一　長刀　十八本

一 扱置丸　申口
右稽古仕方之義申上ル

一 佛所之宗経

一 佛石流

水野淀之丞
小笠原舞之助
服部六郎八

一 川佛少平

中谷縫太夫
〆梶田ま之丞
梶太郎
押手三人
小池之進

益田兵庫太郎

一 てんしんふ

浅利清太郎
出太郎
佐治之輔

一 てんしんふ

東原主太郎
押手三人
林孫之丞
伊之丞
勘太郎

一 捻足貫徹身

玉矢庭太郎
押手三人
三浦要太郎
佐吉
伴之丞
新平

一 捻足貫徹身

関 梶之丞
押手四人
山中之進

一 捻成足貫傳身

伴矢九太郎
阿部伊和
阿六

同 兆平
押手三人

一 御座船　　押子八人
一 御供船　　押子四人
一 御楫船　　押子四人
一 御小船　　押子三人
〆
御船数合十艘
御船頭 六人
御水主 十六人
押子人数 二十七人

右之通宝永頃迄者長崎 御用ニ而茂 御役所
数艘相用ひ候得共 近年ハ船手簡略ニ付 一艘ニ而
毎月十八日之船数四艘ニ而 沖ニ出迎 長崎御用相勤候

一 御目付

一 元文四未年七月十六日唐船漂着之節用ニ
相成候船

一 艀船四拾弐艘　日雇
一 八百石船四艘　同
一 荷船弐艘
一 御小船 二十艘
一 御船頭 十七人
御船数二十六艘
押子人数六拾四人
但、長崎村高浜ゟ差出ス

右之通者唐船漂着之節 浦方ゟ差出候船数人数ニ而御座候

右之山林境内山林并ニ右境續之土地之内ニ而
御除地ニ而中々ニ伐木等ハ勿論山林
末代ニ至迄遠慮可有之指置可申旨被
ニ候得共
右之山林等之儀者右様之儀ニ而御座候ニ付
申達し

御寄附状写

羽明山龍護寺観音依祈願佛餉料并地ニ
拾石為之奉寄附之畢堂主有改退之
令永貴寺住持支配佛事勤行等聊不
可有怠慢者也

正徳五乙未十月十七日　御名

御判

養賢寺乾堂和尚上

源智院為菩提於當寺傍假堂建立
不断念佛依令執行之現米三十五石
彼堂之令寄附之者也

正徳五乙未
二月廿吉日　御名
御判

潮谷寺明誉

奉寄附

若宮八幡宮　御料之事

合二十石

右意趣之為武運長久息災安穏
壽福増長子孫繁昌寄進之状仍
如件

享保十三戊申年
七月廿一日

御名　御判

## 證文

一　米七石八斗五升
　　内
　　八斗五升　半分
　　　年中御祈禱之入目
　　　毎歳六月晦日御祭
　　　御代官御支配
　　七石
　　　両所供料社家料
　　　御方寺　右同

右之　大明神　御寄附ニ而五拾石之内ニ而
相応ニ当年より寄進之上者永々可有
御社納

弥以御武運御長久御寿命　御長久之
御祈禱可抽丹誠候
仍證文如件

享保十三申年七月六日　小林典膳

神主
　指伏古播磨守殿

一寛政六寅年三月
高標公御狩之節ニ　係り之儀申出候

覚

一東十八ヶ出蔵ヶ浦ニ狩猟之節東西十九ヶ村
中は於ゐ候様ニ而も前様二夜畑ヶ浦ニ
出府いたし候事

一狩出筆被掃候　家老始之諸出狩申付候ニ
家中大小之者迄も道へ出候ニ付遅刻ヲ致
者ハ申付候ニ付被申付候年ヶ候ニハ
迄之者出候早速出張相勤申候

一近方之者列々年々相勤相成其上一統之儀ニ
付候ニ付百姓之相勤候二四五ヶ年相勤
之ニ而和ハ年々ニ一統之ニ付遅刻

済候ハヽ其者共御近所出火之節ハ
書一人宛差出し其国ニ而家來召連罷越可申候
哉之上ニて組頭江其段組頭衆江相届
候ハヽ組頭ゟ御目付江申達組頭衆名前書付
並書し候上相違之節ハ御目付衆江申達し
候様可被心得候事

一 国方之人数之中名取之者国々ニおゐて可申し
当分之内本陣より組頭衆ゟ可申出候旨相達し置
候事ニ付右届之其外之者共へ用人之内ゟ罷出可申候

一 近所并隣国之者共へ用人共罷出候様ニ
其国々ニて其旨申聞可申候事

持場之儀

一 御本丸御持場之儀ハ先達而麁文ニ而申達置候段

合図之節者其場所ゟ大目付江申達候而御知
せ有之候ハヽ早速御届之上大目付江者
追々可申事

但右之節者御持場之儀ニ付可有候

一 右之番持之節ハ右之者ニ而青山之番所江持ち候ハヽ持場
場所ニおゐて御届可申候事

但右番所ニ而右之者より見廻り相待候而御知
可申事

一 列卒之者共ハ御組之内近所ゟ出火之節ハ
右之外ニ而も二番山之手近所ゟ出火之節ハ
其外ニ而ハ御相談之事

一 右之青山持場ハ其組ニ而紫持場之者ハ組頭ニ而相届可申
其之者共も人数ヲ召連罷越可申候間見分ニ而立合

一 さて押候ニ人数ヲ圓ノ備当分仕可申し
敵着押し候鉄炮打懸候ニ而大鼓ヲ打候ニ而ハ
合図ニ而相済申候其上ニ大鼓ヲ始終方二つ程て
り拍候ニ付而太鼓ニて人数揚可申候より
合図次第惣人数之調子より退き可申事
尤兼而其節人数ヲ改之節相待可申
事

一 敵揚候仕立而置候所ニても炮打可申候ニ不及候
請手之者ニ付候ニ太鼓ニ而人数ヲ可揚可申事

陣中之合図

一 拍子木三ツ打候而打切ヲ三つ之事

一 拍子木打切ニ打候而一ツ之後段々押候事

一 太鼓押ニ打候而押行事

一 太鼓打切ニ打申候而揃ヲ押事

一 貝一ツ吹立候而押行事ニ而とも
聞候而其のほかに相図之旨ニ而早貝くらひのたくひ

右之通ニ相極候何事も家老共ニ而
申渡候て可被相守者也

寛
三月

法度

一 出入之船浦賀番所之改を受候上ニ而罷通可申事
 其外之者共ハ相改候上ニ而可通候事
 自然之儀有之節ハ早速可申出事
 但猥之儀有之候ハヽ可為曲事
 相心得可申事

一 諸職人法度之儀ハ何事ニよらす
 先年より相定置候通相守可申事
 行列之内ニ而猥成儀致間敷候事
 他所之者ニ而も右之趣相守可申事

一 船ニ而一儀有之節ハ早速申出候様可致事
 相心得可申事
 尤私ニ而取計申間敷事

一 我等船揚場より出候所ニ而方内ニ而諸事相守可申事
 但船揚場ニ而方角ニ而見届可申事
 相心得可申事
 船揚場之儀ハ先年より相定置候通可致事
 我等ニ而申付候事

一 列卒ニ而ハ内ニ而相心得可申事
 行列之事
 但列卒ニ而ハ相改候上ニ而可通事
 尤御用之節ハ右之通列卒ニ而可致事

一 内々ニても右之趣ニ精廉無之候者御
家中切留可申事

一 精々遣留中相改申ニ付諸事相留め指
節遣申者之氏名并御沙汰可相申事
但シ右之無之儀ハ番所并諸職之
ニも決而可申事

一 大り判酒興停止之事

一 諸国事ツ々ヤ之ニして百姓ニ我難儀之
仕り中ふ申附旨論田畑諸事ふ申合ふ
事

右之条々堅可相守もの也
寛　四月

大判之覚

一 町中時之儀ニ付判事在之候ハヽ家ニ集会
城ゟ橋ゟ下りニ人数并諸事相勤候人ニて可差出
ふる者ハ其所之申渡事

一 大り判出国方之人之所ニ出候者ハ家ニて相集
定 城并又橋ゟ下り人数并諸事出勤可申候

一 大り判出国人之定 城ニ而相渡候可申事
但候上リ橋ゟ下方ニ方ニの申付事

一 大り判出之上リ以下定 城ゟ出目付并申候
済候者ニ相勤出目付申候ニ付諸事可申事
但又其外ハ橋ゟ下方ニ方ニの申付事

御出帆之次第

一 当日 御出帆揃ニ付
御家老御用人御国之上使者共罷出候而
御見立ニ罷出候事
 但大目付御目付代り之御用人并
 右類役御目付并之者召連候
 罷出候而御用人ニ差出候事
一 貝一番ニ而人数揃出し押立候事
一 御乗船ニ而人数之面々御座之船へ
 乗組候衆へ茂申付候得共
 御供之面々御国へ可申事

角石御船揃之次第

一 御出帆ニ付御国方之役大目付角石船ニ乗組
 申へし 御家老御目付ニ而御見立ニ
 罷出候儀ニ可有之事
一 角石御召船之事
一 御家老御用人御目付衆家来召連御乗船之
 三艘之次第在之乗船之事
一 右之御船 御徒士御船頭 御乗船次第在之
 乗船之事
一 御家老御年寄衆 御召船へ積込可申
一 右之御用人并御供之面々乗船
 乗船

一 沖石船ニ而川出穀始て川出之船合揮立候事
一 船之船之々石此艘無猶之押付抜不申
中付事
一 沖船行列前後左右之浪難振候事
但水夫共揃へ此艘不残乗込候て
右例に船之先之出申 右勝は左例に
船無之候ハヽ度々相勤て御無
行列 可致このほか事
一 沖出穀并上り候とも船押上ケ候て
このほか出船致候得共押立候ハヽ
申事
一 角石台 沛上陸候事
但出ル船台 沛先之 日出 上陸候て
中は沛船共に加勢陸台 上陸致候事
一 角石台沛付行列之ほか
一 場所模様ニ付此之一同致沛先之事
船之者共右方振場所ニ相成候
一 沛出穀之方様之ほか致候事
一 沛出穀前ニて出申候ハヽ沛先之付游出
このほか事
但右之様致し候へとも右例より
先々押付 右例に水夫共出候は
左側押付 左右之浪難振候て
一 このほか致事

一 御先箱止メ候て無人数ニ候ハヽ亦好候て
押候ニ不及候事
一 御道中持参之鎗大中尾ニて 持候事
一 御供之面々ハ無人数ニ而 御先長柄無用
持候休息之事
一 御先之者御国方供之者不残召連候て
一 御供之面々御当所引列平伏可致候事
無事ニ候ハヽ 御先之下座之鑓御持[illegible]
一 御先之御道具之者一ニ而御持[illegible]
一 御道中ニ者鑓御[illegible]御列ニ解[illegible]
一 御出入之節ハ 御道具[illegible]之事
一 御先二張之 鑓御持御除御[illegible]上
御提灯御鑓之 一鑓御持[illegible]

手前召連候ニ付而ハ供方ニ而 鑓御持[illegible]
御通路ニ候ハヽ 御先之者[illegible]事

御持之御道具

一 三番御記之事 書付ニ而
御先鑓ハ 御持之列ニ而[illegible]
一 御長柄之御列之 [illegible]之事
一 御供之面々[illegible]
一 無用之事
一 御出入之節ハ[illegible]
一 [illegible]之事
一 [illegible]一鑓[illegible]可有

一 国之事
一 精進之外頭取共揃ミ候ハヽ弁当仕舞ニて
御ニ三ケ所ニ而吟味之上ニ而御厩衆ヘ申上候事
一 海之丈夫仕舞之内ニしり所ニ而御厩衆ヘ申付
事
一 右衆之内ゟ寄合候て進退之儀又は進退之儀
何等之それゟ随分列座有之候ハヽ一同之上ニて列座
有之吟味之上出仕候様一同申合候事

御頭職之次第

一 其書付之記録帳面之分有之事三ヶ月ニ
御本陣へ相談
御出候ハヽ其之通ニ候ハヽ申付候事
一 列座有之出勤之節ニ而御同前ニ而可被申候

一 御立寄之御出ニ而一同越候ハヽ申候事
一 姫井浦ゟ御立寄之上ニて其段申談候ハヽ解合之儀申
御日目安雑事之儀右日記ニ有之事
一 御立体 御殿之上御年寄中御尋之儀有之ニて
茶湯之儀御何列之儀一同ニ申候事
一 御出雑事之て有之て御出之上押立之候事
かつ御渡方御家老ゟ被申候御出之上御船場之
一 其外ニて御知行之儀ニ付候ハヽ申上候事
一 御召船ゟ御出之て角之ゟ上陸
御召船ゟ路次之節虚空之者ゟ下々上陸ニ
不申事ニ御行列之節ニ御供之衆一同之相渡
其之ゟ御行列有之ゟ御行列之図一同ニ申候事
一 目安一通之ゟ御出之ゟ押立之一同申候事
一 御旗本之衆其段申遣ニ右之段御指図有之可

町年番
右之通被仰渡候ニ付
伝吉方ニ而請取之儀ニ付而も
清兵衛方ニ而　伝兵衛
清右衛門・治兵衛・長左衛門・清兵衛方江　其外名前之分
名前書を以御訴申上候所　伝兵衛
名前之通ニ而も申上候ニ付
清兵衛之名前之儀当主ゟ差出申候
右之通相違無御座候
以上

　寅四月

一明和八卯年七月

　　覚

一足袋之儀、此度市中小間物屋ニ而足袋
商売之者共、諸株仲間ニ相成候様御願申上候、市中小間物屋共ゟも
請書差出申候
右之通何れも御請申上候
市中小間物屋共之儀ニ付
名前之者共拾壱人、其外之者共
此度御仕法之儀ニ付
右之通相違無御座候
右之通被仰渡候ニ付、以上

明和八卯年
七月九日

一清玄寺ニ而中将様御下馬地之処

一八十挺　中将様

一六十挺　御徒士

一六十挺　御足軽

一四十挺　足軽

---

佐伯龍鳴山寿昌院

御廟堂之記

曩祖従五位下民部大輔藤原
朝臣高政後改伊勢守氏森尾
州之産也其性卓犖雄偉也少
而仕太閤秀吉公天正十一年
四月二十一日於江州志津嶽
秀吉公与柴田勝家一戦之時
遂敵挑戦自備兵其餘毎臨軍

無不得利也同十五年賜豊之
後州限城及秩禄二万斛文禄
年间朝鮮征伐之時從命為軍
監在陣經年姑還兵於肥州名
古屋謁秀吉公感賞其忠誠而
遣豊州日田玖珠二郡吏之再
渉朝鮮圍南原之城陷之且於
水營之瀬先諸將与大明番船
忿撃而自操戈追討歐兵而振
武威於異域本邦秀吉公褒稱

勇猛而厚賜感書數篇慶長六
辛丑年四月五日因
東照宮之命辭限城賜同州海部
郡佐伯庄築城於鶴屋而居之
慶長十九年冬攝州大坂陣之
時
東照宮之命於備前嶋京橋市中
以計策悉有功翌年夏再聞開
東　御出馬之告而出帆於佐
伯五月七日到大坂拜謁

東照宮　台徳院殿元和一統之
後世奉仕　将軍家也寛永五
戊辰年十一月十六日於武陽
卒春秋七十歳號乾外紹元鳴
呼大哉高祖餘烈以長輝子孫
之後榮我苟續箕裘景慕之不
歇於茲新造立靈廟謹誌之

一安房守重宗御代ゟ初メ二本道具出来候を
有之候由ニ而古代ゟ武證ニ致出来候ニ付右
御代ゟ当出来致候様ニ而御指図候得共其以前之
且年月ゟ古書ニ而未見当不申事

一御指紙ニ而出来仕候旨頃ゟ申伝へ有之
由ニ而上書ニ茂田豆房助豊田内蔵助
磯部助ゟ上下各相当之穏ニ有之太出来候節
中ニ其御ゟ承候是ゟ古出記録中ニ茂相見へ
見当不申事

新田高帳面之写

新田

一 高三石八斗八升　西之村改出し

右ハ慶長十五年ゟ作来候

寛文四年辰
卯月吉日　毛利伊勢守

小笠原山城守殿
永井伊賀守殿

新田

一 高三石八斗八升　西之村之内

右ハ慶長五年以来不残仕来

一 高六石弐斗八合五勺　西之村之内

右ハ寛文四辰年以来年々田畑増ニ而不残仕来

二口合九石六斗七升四合

貞享元年子四月十一日　毛利駿河守

[illegible]殿
[illegible]殿

一 高九百六十七石四斗弐升壱合 新田

右ハ貞享元子年 御改之節出来ニ付

新田改出シ高ニ成候以上

宝永八辛卯年二月 毛利周防守

安藤右京亮殿

松平伊賀守殿

一 高千七百七十八石四斗四升七合七勺 新田畑

右ハ前書之通御座候以上

延享三丙寅年二月廿一日 毛利周防守

秋元摂津守殿

松平紀伊守殿

一 高右同断

宝暦十庚辰年十一月廿三日 毛利大三郎

阿部伊予守殿

戸田采女正殿

一 二ヶ所御判

天明七丁未年

松平和泉守殿
青山大膳亮殿

毛利和泉守

一 寛文十一年以来之御上屋敷ハ大名小路ニ而
松平土佐守様御屋敷表通り之内備前
御方様之備前守松平能登守様ゟ参り当時
松平阿波守様御屋敷大膳大夫様ゟ相渡り御屋敷ニ而
御方様御屋敷ニ而土佐守様之御屋敷一所ニ表替
右御屋敷ニ而明暦三年之江戸絵図ニ也

一 当時
御方様御屋敷并名佐倉様御太寛文十一年
土佐守様御屋敷下ニ而御替被仰付明暦之
絵図面ニ而当時之御屋敷之所ニ而相模守様
御預ケ置候得共右之通ニ御座候三方御座候
右之通節々高附ニ而屋敷御座候而此段申上置候

一　大ぶ上ニハ土佐守様ゟ出し此儀ニ付申付候處
如何之義ニ而未雅之寛事ニ付而ハ申
猶為相極候　土佐（七）守殿様　土佐守様ゟ此儀之埋
候旨申候

養賢寺代々住職之覚

開山三関和尚
佐土国之産之
住職三十九年
寛永二十未年　正月晦日遷化　慶長十年開基

二世玉田和尚
當国之産之
住職二十年　辛年ゟ隠居
寛文五巳年　十二月廿二日遷化

三世槐州座元
豊後臼杵之産之
住職三年
万治三子年　十一月廿七日遷化

四世識禅座元
御城下之者之産之
住職七年
寛文十一亥年　六月廿日遷化

五世 性海座元
江府東禅寺ゟ入院
住職十一年
天和二戌年十二月五日遷化

六世 雲嶽座元
豊後玉名内杵田之産
住職十年 杵田ニ隠居

七世 東天座元
豊後玉名内山本之産
住職[illegible]年
元禄八亥年正月十八日遷化

八世 活門座元
豊後玉名内杵田之産
住職八年
元禄十五午年六月晦日遷化

九世 乾堂和尚
伏伯仁田原村正定寺住持
西通寂主

十世 匡山座元

一 寛文三卯年
仙洞御所御対屋御造営一件

御名代

御本〆

小普請奉行

御勘定

〆沼 隼人

西尾五左衛門

〆幸田宗左衛門

豊田新之丞

〆大嶋長左衛門

河野権左衛門

〆林 半右衛門

熊塚市太郎
村井彦太郎
佐久間久太郎
梅本源太郎
梅本勝之丞
杉元小太郎
福田八之丞
〆 中沢兼之丞

右拾五人
者今度御
於御目附前ニ
申渡ス御免し
筆

〆 関十太郎
梶西虎太郎

右道倒仕者共ニ
而ニし

河野三太郎
横田八太郎
大賀市之丞
安玉大之丞
板戸甚五之丞
水野平太郎
横井輿太郎

一 右御造営出入用之

御封金
一 銀弐百三拾枚之外　三百九貫之上七百匁毛
御手形之分也
〆 一 銀五拾八貫三百拾六匁　六分七厘三毛

拾合
〆 銀七百五拾六貫　五百五拾六匁二分六厘

右之訳
一 銀百七十貫　六百三十目九分
一 米三百六十石八斗　七升余　入用

四萬木代
尾州米

一 永四千七百四十貫弐百文余　隆伯代

一 口米三百六十石余　細田代

一 口十弐万四百八十八石九斗余　拓沢代

一 米百四十八万九千石余　…代

一 永四十貫弐百六十文余　鎌…代

一 口八百七十八万九千石余　…代

一 口六百四十石五斗余　…代

一 米弐百四十七万四千石余　…

一 永九百七十八万九千石余　寛…代

一 永三千四百四十貫文余　井戸…代

一 米百四十石六斗余　…代

一 永百十九貫三百文余　小笠原…代

一 口米弐百八十三石九斗余　荒…代

一 米三百九十石九斗余　…代

一 永四十三貫弐百三十文　…代

〆

一 大工弐万千六百十七人
米弐十六石余 …

〆

一 銭八千八百十弐人
米四百七十石 …

右増ハ此両前書御座候

一 享保十六亥年四月廿五日
出火之節下ゟ上屋敷ゟ類焼致候、右ゟ類焼前之
御表ゟ奥ゟ之惣坪数左之通

前之坪数
一 御表　　六百八十九坪
一 御奥　　三百十三坪半
一 坪数千弐坪半

此度増地上
一 御表　　四百七坪半
一 御奥　　弐百四十九坪半
〆坪数六百五十七坪

公方御忌日覚

東照宮様
元和二丙辰年四月十七日　駿州　久能寺

台徳院様
寛永九壬申年正月廿四日　御霊屋　増上寺

大猷院様
慶安四辛卯年四月廿日　寛永寺

厳有院様
延宝八庚申年五月八日　同寺

常憲院様
宝永六己丑年正月十日　同寺

文昭院様
正徳二壬辰年十月十四日　増上寺

有章院様 正徳六丙申年四月晦日 増上寺
有徳院様 寛延四辛未年六月廿日 寛永寺
惇信院様 宝暦十一辛巳年六月十二日 増上寺
浚明院様 天明六丙午年九月八日 寛永寺
孝恭院様 安永八己亥年二月廿四日 同寺

# 御當家御世統御忌日

御廟所

高政公 寛永五戊辰年十一月十五日 東福寺
高盛公 同九壬申年十一月七日 養賢寺
高尚公 寛文四甲辰年八月二日 同寺
高重公 天和二壬戌年四月七日 東福寺
高久公 正徳六丙申年四月十六日 養賢寺
高慶公 寛保三癸亥年九月十三日 同寺

高岳公　宝暦十庚辰年六月十六日　東禅寺

高標公　寛政十二庚申年八月十一日　同寺

一天明三卯年六月六日御老中松平周防守様江
差出候御達書左之通

毛利和泉守

豊後国海部郡之内御料私領村々之儀
之候所々村々之儀佐伯藩並高松ニ而所々
内ニ而御預ケ之地ニ相成候ニ付雑用右数
以て右村々御預ケ不ニ佐伯領之内ニ而
之者私領村々之儀雖為御料相成候ニ
訳を以右十ヶ村之儀武士御取計候ニ而
候ニ付而ハ之儀右村々之儀者右御料不ニ
準し以来右之通ニ而御預之儀取計候

従来仕来之通ニ而以来御年貢
納方之儀私領村方ニ付合免相極御年貢納方
等り取ものも可然佐伯国増相極候
之し仕方申候迄御国増相極候
御用仕来之儀者右御取計御座候
この度達て御備ニ而御預ケ中之儀
之代相一切之儀御取扱之儀
取計名主相定之所之儀
二の通し

一公事訴訟裁許ハ佐伯ニ而取計候
以来方之儀御座候一の右達て取扱
之者右之通ニ而候ニ付
之通ニ而

一御預ケ被仰付候一の之儀右村方
之之通し
佐伯領之儀右之通申候

支配ゟ一ノ取達し

右之趣ニ御座候

六月

国立公文書館
National Archives of Japan

一 寛延三午年十月戸倉外記ゟ申出候書付写

毛利伊勢守家来浪人
知行高百石
服部三左衛門
浪人之節子 二男
平之丞
当午廿七

知行高四百石
植田蔵之丞
浪人之節子二男
当午廿八

右者人々隅年ニ相続仕 当午迄高四百
三年之間ニ代々御家中江罷出 御取立被下
病死仕候ニ付 代々御家来浪人ニ罷成
当年迄大九郎ニ罷成 三十ヶ年以前
病気ニ付五年以前より当午迄
浪人ニ罷在候 大九郎義ハ病気ニ付
御座候ニ付 治 浪人ニ罷出候 当午年御代

知行高千石
浪人之節子 拙者
浪人
長十郎
当七

右之者浪人当午年御代々浪人長十郎

右之通ニ候

万治二年
六月五日　　毛利伊勢守

酒井紀伊守殿
本多美作守殿
伊沢隼人正殿
内藤右近大夫殿

一　天和二壬戌年
右之写　号御目付様　従濃州守様
筆久留濃守様抱山上末和

豊後森ニ而五月十日御家督　六月二日江戸ニ罷出候
同九日ニ江戸濃守様ニ而御目見　同十八日御日付御前ニ而
御一家御目見御老中並諸大名方へ
被仰付候

一　右之外六月廿一日　小笠原伊勢守様ニ而久留濃帯刀様
同日ニ出候而御目見ニ御座候
右之通ニ候　追而　御座候　同七月十一日
御礼ニ[illegible]
久留濃帯刀様　同[illegible]

一　天和三亥年　三月十二日　阿部豊後守様ニ而御家来
御大名方ニ而御目見[illegible]
御[illegible]
[illegible]
[illegible]

四艘出帆之趣申立候

鈴木三八

錦織帰之進

右其人々

一 右帰役人ニ申渡候ニ付

保右衛門　吉之丞

武右衛門　源之丞

源内　喜六

米平　伴善吏

当行

吉兵衛　源三之丞

甲米　伴右衛門

一 右者一日一夜詰勤番

一 右役人迎船ニ乗組出帆二月十五日ニ到着

迎船

十二端帆

五枚帆

比根帆

但本通り乗組之者右通大和船ニ積入船中ゟ差遣候

一 帰役人二月九日ニ出帆出船ス

長谷川兵助

大濱源内

世度新平

安波武之丞

松本喜三之丞

知念三隆

宮平右衛門

出羽　内之丞　助太郎　五右衛門
御吉右衛門　清右衛門　佐右衛門
伝之丞
〆

一 右之面々御代替之節御新年ニ付浅野安芸守様料理人之者共伝三郎并小人ニ至迄大工二人呈録八人佐伯ニ下され来候も古来ゟ江戸ニ不被下候

一 貞享元子年南部信濃守様御縁組被仰出候
高之宮ゟ御縁組十二月四日二ノ丸御婚礼相済候

一 同九日御引移被遊候

一 同二丑年四月十二日南部様ゟ御結納もとし

一 同三寅年十二月十三日御婚礼相済候

一 同年南部様ゟ表向へ御年頭表向諸役人
其外代官三拾五人ゟ銘々被下候
ニ付

一 同四卯年五月十九日　御里様南部様へ被為入候

一 同五辰年
高之宮様御逝去
高之宮様御養子被遊候七月廿八日御死去　但
御息女様御部屋
御逝去被遊候　御遺言御尤之通り御相続被仰付
御部屋　九月十八日ゟ御内御役御扶持被下
右之通り
高之宮様御葬送之節御遺物　〆

一 御目見仕候處庭前ニ而召出候

一 元禄二巳年九月廿二日
常憲院様御袖留仕候十二月廿三日御召被下
御肴 右同人様

一 同三午年正月七日御官位御礼被仰付七月
五日御免被仰付

一 同十巳年 宗紫州公帰御暇
常憲院様ニ御家督御礼被仰付十月廿八日御前ニ而
御目見十二月廿八日御前ニ而 従五位

一 同十一寅年正月廿八日御使御役被仰付六月
廿八日御暇御礼ニ而召出候

一 同十二卯年

二之丸多年御服之儀御役御用ニ付
御前ニ而御移徙ニ付御用御番戸田
山城守殿ニ而被仰付同月十三日
二之丸御用御前ニ而御宴之上御膳
二之丸御用ニ付 従五位

一 同十五午年

一 同十六未年二月十二日
御奥様御懐胎ニ付武田下総守殿ゟ御帯ニ而

一 若殿様御誕生 後号 播磨守様

一 同年九月九日
若殿様御出生御祝儀ニ付御役

一 同年三月十六日江戸御留守人ニ而御年寄
若殿様

一 浦賀石垣御普請被仰付候
二ヶ所之儀 佐竹右京大夫 浦賀奉行御用書
状之趣ニ付 御普請所右之通申大浪ニ付
浦一波ニ而被破損所有之 大破御修復
之趣 此度御普請之候ニ付 江戸ニ而御用被
仰付候所 右御修復ニ付 御用之御勘定
修理方大塚栗甲之助并御普請方之
其外方 出役有之候等 御用之儀 御門
御入方様 御見分之石 出役之 御取調
出役之候ニ付 御普請方ニ而 当月十一日ニ付
御普請場 御出役 同月十四日 御普請御取掛
有之候処 御普請ニ 佐竹右京太夫出来之
二ヶ所 御普請之儀 此度出来之 御普請

一 方之儀者 手当御見分之儀七月中ニ而
之儀 御普請之 同様之品 御普請并
浦賀之方御出役之 同年中ニ付 出役之
御普請方 之御出役 出役之
二ヶ所之 出役之儀ニ付 出役御取調
右之入用 御普請之儀 同年中ニ出来之
之通之 同年 大工方御掛り之
御普請之 出来之 御普請ニ而 同御掛り之
御座候 同年 御普請之 出役之 出役
二ヶ所 御普請之 出役之 出役之
之候

一 浦賀御普請之 場所 御普請之 御用之
角石之 切石之 出来之

一 八月晦日於老中[illegible]御呼出[illegible]
[illegible]御城江[illegible]
[illegible]定所江罷出候
[illegible]御老中方御列座小笠原佐渡守殿被仰
[illegible]
被仰付候[illegible]月[illegible]
御目見[illegible]仰付[illegible]白銀[illegible]
御前江罷出[illegible]
[illegible]
上意[illegible] 入御候[illegible]
[illegible]御老中[illegible]
[illegible]松平
[illegible]

一 大御目付ニ而[illegible]
[illegible]

寳永元甲申年四月廿三日
蒙
鈞命石垣御普請御手傳
五月十四日御事始七月
中旬終其功焉
毛利周防守藤原高定
從半藏御門際北貳百五拾間

一 九月朔 松平伊予守殿 大坂御城代被仰付 御暇被下候旨 本多弾正殿
山崎権十郎殿 益田金左衛門ニ御用ニ付 罷越候處
御書付を以御渡し候ニ付 御請 被仰候 但 上下着用
御玄関 御下乗 被成候 一 御用向 御書付 相渡
御請仕候 且 御挨拶之上 御返答 申上 御家来へ 御渡候
両人 出席 其外 御家来 罷出候 御挨拶 罷出 相済 退出候
右之外 別ニ 御用 無之 候 事
一 同三日 右 同様 之 通
御勘定 御奉行 方 御出 之 節 一 御用 相済 候 旨 申上
同日
御城 御用 御出 之 節 一 通 相済 之 御挨拶 御答 相済
御届 御出 御書付 等 之 事 御事 御 申達 候 申候
御届 候 御用 御伺 御済 候 上 御礼 之 事 書付 御渡 之 事

一 同日 四ツ時 益田金左衛門へ 御用 ニ付 罷出 候 處
御用 之 筋 京都 御用 之 事
御番 相済 上 松平 越中守様 御渡 大坂 御城 御用 御出 御供
御番 衆 御前 へ 御用 御渡 御 伺 御 用 人 様 被仰 付
右 之 御書付 御 渡 掛 御用 人
御用 之 節 右 御書付 一 同 藤沢 様 御 伺 之 上 御 役 人 衆
御老中 様方 御渡 候 處 山崎 権十郎 様
藤沢 様 御出 御 達 候 御 書付 被 成 候 何 御 用 之 御 渡
之 節 御 用 人 へ 御 渡 相 済 候 上 御 伺 之 通 御 答
御 書付 を 以 大 御 番 頭 上 座 ニ て 御 渡 之 上 屏 風
之 内 御 用 御 出 御 済 之 上 御 礼 申 上 候 事
右 之 御 用 相 済 大 目 付 衆 御 出 之 節 一 同
御 同 人 へ 御 用 之 御 伺 御 用 番 御 事 相 済
御 礼 御 用 人 へ 申 上 候 御 届 之 上 退 出

御預御目付様方ゟ御内意御目掛ケ候ハヽ急度申出
落着迄ハ差扣 御国元へ差越候迄申上候
候し宗対馬守へ被仰付候 但し右者被仰渡候御書付持参
御差図之通 御沙汰之人々御判付御目付御渡ニ付
然る處 御附方御渡ニ相成候処 御勘定奉行御目付へ相達候
候右之御沙汰御達ニ付 一通ハ太田摂津守様御掛り御渡
並御勘定様方ハ右様 御留役 御呼出シ之上て 右御書付
御渡御附様ニ付 相渡 重立候者共ニ御手渡
御留役衆ニ申渡ニ付 御沙汰之上 御渡ニ相成
何事者御呼出ニ付 御勘定御奉行衆へ上申ハ一同ニ
但シ右者御渡シニ付 御沙汰御渡シ上 御勘定御中御渡
被仰 右御勘定ニ付 右之 但し右者 御月番
有之候ニ付而 一同ニ御渡之ニ付 松平右京亮様
御老中様方 松平右京亮様へ被差出候 御月番

一
右者 御勘定奉行衆 小笠原信濃守様 御老中 太田
御前ニ而 御勘定上席
御勘定方御列席 御老中様 松平右京亮様
右御書付 御渡

一 白銀二十枚
メ 附添之
御羽織一
益田金兵衛

一 白銀五枚
メ 附添之
御羽織
宛
山本平太夫
メ 支配 源三郎

一 白銀十枚
メ 附添之
御羽織壱
宛
吉村源太夫
メ 幸兵衛 源五郎

一 宝永二酉年四月朔日新番ニ而十三人御番入被仰付候
有之候

小普請
幸田傳三郎

小十人
大根田文八

伊原権太夫

御中小姓
荒井源太郎

長山平八

河合吉太夫

荒井安之丞

荒井清兵衛

御中小姓
板倉元右衛門

小普請
中村新右衛門

河合弥右衛門

小十人
大坂善兵衛
早川平太夫

御中小姓
山平兵衛

一 右番入ニ付御番入之節中小姓組御番入仕候ニ付
御番入仕候ニ付(明)此度新番ニ而御代り入被仰付候
右様之儀ニ付松平豊三郎殿御内ニ而
之上御勝手ニ而御座候由承知仕候

覚

一 去年新番衆被仰付御目付衆之内大御番衆
御目見仕候節何も有之候間御入被仰付候
ニ付去年大御番組ニ而今年被仰付候
然者右之儀何方江茂罷出候様ニ御座候何茂
御番方ニ御座候此方ニ而申上候様
有之御座候此方ニ而申上候
使番之人茂有之候ニ付右様之儀御座候
二付候ニ付御座候右之通申上候

之右何方ニも庭ニ上ヶ候者之可為
様ニ候ヘ共自然自殺ニも人数召入
被申出候急ニ川瀬ニ而存候得
此方ニ而申付候ニ付
也り候

一 宝永二年九月十四日御家中知行一束ニ而
隠居家智跡被仰付候 但シ老人ミニ新知之者ハ
知行ニ而被成只今之知行名字御書出シ
被下候ニ付此節皆々被下候
之但シ新知之者ハ 何茂御蔵米被下候
之年

一 宝永三戌年 内同所ニ而御十村様ニ而相
之隠居之年

一 宝永四亥年正月十八日
御前様御機嫌御伺ニ罷出候而御座候
御用ニ相勤
一 同年十一月九日
参勤御用様御蔵米出来ニ付被仰付
御蔵米之儀ニ付
一 御家中知行ニ付被仰付候

目録
一 及諸新知 但シ之ニ年ニ而御
中知行之者ニ御知行被下候

一　以後ハ御心付不申御内々ニ而大樹公
御覧ニ入候而左様ニ被仰付候事
一　七月晦日より御加増被仰付候の諸人
いまた御ニ而御加増ニ被仰付候事
一　八月朔日以後御加増被仰付候の諸人
いまた御ニ而御加増事ハ被仰付候事
一　七月晦日より新参仰付候の一年ニ
御役料なと被下候而新参衆御内表
まて仕へ候様ニ被仰付候事
一　八月朔日以後新参仰付候の一年
御役料まて被下候御見え衆新参西衆
まて仕へ候様ニ被仰付候事
一　七月朔日より御番衆の一年組衆
へ被仰付候事

一　八月朔日より以後ハ五十日ニ一年ニ組衆
まて被仰付候事
一　七月晦日より病死候跡式御番衆
よりの御新参衆御番衆も手備衆
まて仕へ候様ニ被仰付候事
一　十月朔日夕刻以後二ノ丸御台御養仕へ候ニ付
新参衆遺ニ新参衆親も
被仰付候事
一　十月朔日以後病死の者ハ大名衆
御番衆新参御番衆九月晦日より
御見舞ニ仕へ候事
一　当年より病死候被下八月
中ニ仕へ候事
一　江戸組衆人中間人足御救

異儀無之候ハヽ拝領可被下候事

右之通相違無之候 依之御判形於京都も

此段御聞届被成下候様奉願上

元禄九子年九月九日　益田金之丞

西名右衛門殿

東條半右衛門殿

覚

一 拙者儀浄瑠璃語式部掾之流ニ御座候ニ付

新規ニ　依之名代職ニ拝領仕度

先年来願上候へ共相叶不申候事

一 亡父之ことく之受領仕候ハヽ縁

名乗候ハ日ヨリ拝領可被下候ハヽ右

隠居之後も名跡相続之儀願申上候

家督候ニ付被下候事

一 拙者伜儀も右之拝領仕候得ハ伜儀

とより名乗可申上候被下候事

右之通相違無御座候以上

元禄九年子九月九日　益田金之丞

東京中右衛門殿

西名右衛門殿

一 去月十四日ニ紅葉山御宮江被為入候 御勤
被仰付候ニ付東叡山御参詣 御供相勤
上旬ニ而御縄ニ付御参詣[illegible]
御家来[illegible]御承知[illegible]
御役所[illegible]御留守居[illegible]
[illegible]三月十七日ニ御縄ニ付[illegible]
[illegible]三月[illegible]追而御届可申
上候[illegible]
[illegible]
之候間御出府[illegible]御届申上

一 巳十二月十八日稲葉大炊助殿御届
臼杵
代
家老也　十弐人
歩行　十四人
一 右御供之者也
先達而
内壱人　無年月　益田金之丞
〆　同　加池
無年月　菅川忠之丞
同
諸生之者　岩本[illegible]
〆　郡代　田中[illegible]人
一 右外[illegible]人　中
城番[illegible]

右之通太物絹紬等ニ者染上ヶ紋付
下々ニ至迄何様織候とも
拾人ニ付壱人宛済候事

一 知行取ニ而御役之者ハ諸芸者共二千石迄ハ其体ニ応候ハ
弐千石迄体応候事

一 中小姓ハ御役之諸芸者共二千石目まて体応候事
十石体応之事

一 歩行ハ御役之諸芸者共十石まて其体ニ応候事
十石体応之事

一 無足者歩行同前

一 足軽ハ御役之諸芸者共十石まて其体応事

右之趣者先之事
竹林院様御実母ニ付而者御当人ニ不限先年
御家ニ不限二万石ニ至迄御本家ニ而済候事

巳十月廿五日

一 大庄屋者是迄之通茶巻物御免之通可被申付候
御構ニ而も是迄之通一ヶ年ニ壱度茶巻物御勘定人
上下ニ而御大小指候ニ付遠慮ニ付御免可有之
尤御耕作仕候ニ付直ニ而御免之儀ニ而用捨
ニ可成義ニ候間之体ニ而も御役他所ニ出候時
御郡ニ而も耕作之儀者不残御免候得共
可遣下之者迄相慎候ニ而御免之処尤御差図
ニ相成其上御用人之奉行ニ相伺之事

一 蒲池之着不審人之義白峰安信守被入候両十
五代之宣代之御系譜ニ 信仰之新書之相調
お之二ヶ條候哉三ヶ條之行方史書 之儀之書之系
譜之ら 信仰

一 明暦三丁酉年正月十八日江戸大火事之御屋敷之御類焼之依
正月晦日中書大名衆江被之御屋敷之事

一 万治四辛丑年正月十五日江戸ニ而御屋敷御類焼之候二月十二日
中書之大名之御屋敷之事

一 寛文元年壬八月仙洞御作事之御供之
依而仰中来

一 寛文二年十二月廿八日
二条亭公御上京十二月四日二条殿ニ出仕之依召候
御下向之事

一 同三年卯七月晦日文之丞
一 同五年七月十三日右清人 御名代名護 名字之
之 信仰 御上京之事
一 同六年十二月十三日
二条重公御隠居之事
一 同九年五月廿七日
二条重公 御同月之未亡願中来ル
一 同十二年壬子八月十三日光宮様御下之御屋敷之御相
之趣同前ニ大名衆御屋敷ニ松平出羽様御預ケ之儀
之始末

一 貞享三年七月仙洞御所新造仙洞代御
於西天王社北仙氣曲一揃丹波様

之ニ付当浦ニ残り一艘抜置年上乃大京之
給国仕申候江戸ニ相京添之ニ申上候様
ニ候様出来相揃候ニ付相違無之候
一 貞享三年九月朔日旧船大破ニ付相合申候
上様十一月相改申上候出来申渡之候
一 元禄九年相改申候相揃申候安積之様申候筈ニ相揃候
御船相揃同年七月十八日ニ申候様ニ
一 同十三年相改申候少人数三十六人御用
相済申候

右之通相改出来候得共相済申候

覚
一 御家中之面々年頃相改申候儀
竹林院様御代々古新之無相違御入之面々
御座候所ニ相改申候　御役所御面々之年
相改以御判形を以被
仰付候儀ハ相済申上候得共御家老
中申上候通御改ニ相成候古
勢州様御代出来候ニ付御家之相改申候
古新之儀相済申候　御代々之元禄十年迄

一 年始ニ来候ニ付古新之分可申付事
 病在江戸之内清(?)[illegible]候而其後一旦ニ上
 申来候処其上ニ而申付不届ニ付候ハゝ
 俗(?)ニ而古江戸ニ請(?)申候得ハ急度可申
 ニ付押込可申事

一 病(?)在家(?)ニ而申付候ニ付以後江戸
 請ニ而ニ者吟味(?)致候上ニ而於(?)江戸
 申付候ハゝ不届ニ付急度可申付(?)ニ候

押込可申事

一 主人(?)以上之悴ニ父之家督(?)候得共
 父(?)親類(?)之儀ハ不申付候ニ付文之
 古新之事ニ付吟味之上可申付事
 向後(?)右之悴之儀ニ付候ハゝ以前
 従(?)家(?)之代(?)ニ而御(?)押込

ニ可申事
 但(?)主人(?)以後(?)古新(?)之年数ニ申付
 見届(?)候而押込候ハゝ
 并(?)不届之吟味(?)之上押込可申事

一 後(?)人嫡子(?)申付候ハゝ在所之用人(?)並代(?)之
 者ニ而ハ押込申付候ニ付家督之儀
 右躰之後(?)人之悴ニ而ハ追(?)年数申付(?)候ハゝ

可申事
 但用人(?)並代(?)之儀ハ以前申付候処
 年数ニ而申付候事

一 小(?)役(?)江押込申付候悴ハ以後ハ
 ニ而悴之役(?)儀ニ而 但(?)家(?)之父(?)年数ニ申(?)付
 ニ而之上可申事

一 足軽小頭ゟ古新之無差別ニ末席之通
併相勤候事

一 年頭并礼之節諸人合刀目録中小性格
小役人之通月番相勤候事

御礼節之節 御出之節以下
御流物頂戴之事

一 番頭之併中小性之通相勤
御出之節相勤候事

座順書

文化十五年六月四日
同年同月六日左京殿ゟ被仰付

御用人
戸倉六郎兵衛
根 弥太夫
益田金之丞
益田卯純
西尾多右衛門
東条市右衛門
足軽
黒川長之丞
関 十右衛門
岩本平右衛門
古川仙右衛門
遠藤保之助
関主税之丞

一
天保十二年家督　御用人ニ付
同年拾月郡奉行吟味郡代ニ而

郡代
福原大右衛門
佐久間波右衛門
新庄[illegible]右衛門
江戸留守居
梶川市右衛門
側用人格
西原彦之丞
東条[illegible]之丞
長谷川[illegible]右衛門
[illegible]原右衛門
元締
生田條右衛門
竹中半右衛門

岩本忠右衛門
東条論吏

是迄御座

諸人ニ用
是之御流

國友兵右衛門
[illegible]波八右衛門
羽生越之丞
同[illegible]作年
坂本[illegible]之丞
[illegible]塚[illegible]之丞
杉本武之丞

並河与次兵衛
長谷川主膳
梶西金右衛門
古賀半右衛門
細野重兵衛
大澤八郎右衛門
中根孫六
佐久間猪右衛門
浅井源兵衛
三浦源助
若林三太夫
尾関段太夫
古川仁右衛門
羽生伝右衛門
前澤新兵衛
堀平吉助
畑作右衛門
大根田又八
高原左右衛門
河野清右衛門
上野平次兵衛
永留又兵衛
鳥野十太夫
高木又右衛門
三浦吉太夫
榊原三之丞
宮川平兵衛
三浦友右衛門

元禄十一年十月より仰
同年十二月十八日新番と
相成

中小性
是ハ之通

(仁)御用人将
頭役将
(格)御次将

竹山弥之丞
伊藤権大夫
明石弥右衛門
永瀬七左衛門
古川七左衛門
福永平太夫
梶川伊左衛門
斎藤新右衛門

中小性以下御役御免

柳川傳右衛門
石河伊右衛門
岩本平十七
尾崎(唯)右衛門
小笠新八
山中傳右衛門
久米長次郎
斎藤四之丞
赤沢大之丞
石井政右衛門
福見平十郎
永山平八

山中新之丞
笠原孫太郎
菅沼彦太郎
出目十蔵
西尾(名)左之丞
浅沼右太郎
真見清之丞
岡谷三郎之丞
河合助左衛門
竹岩又太郎
古屋吉太郎
柘植忠太郎
平石弥太郎
向井政太郎
山本藤太郎

寛永元年十二月十一日
一番組

溝口八郎右衛門
茅井安之丞
永富助右衛門
中村清助
内山平兵衛
小川伊左太夫
菱田与太郎
山口七郎太郎
小林九太郎
保田郡之丞
笠 伊之丞
荒井清兵衛
中瀬左太夫
中原政太郎
中村茂右衛門

椎谷宇右衛門
松尾湯庵
出村三悦
富沢新左衛門
山井内記
岩山弥左衛門

二十騎衆並之　御書出し
歩行
衆

浅沢源八
〆
富本権右衛門
三宅孫次郎
三宅喜之八郎
松葉並之和

中路十右衛門
富田俊右衛門
出村権玄
山口理右衛門
岩瀬三之助
三宅加左衛門
近沢多兵衛
彦惣次右衛門
浅沢源八
三宅長三郎
保田権右衛門
田代孫右衛門
早川新三郎
中村彦右衛門

依岡多右衛門
依岡宇右衛門
足木権右衛門
吉田孫六
安永保右衛門
清水才次郎
能勢与右衛門
喜多長助
古田彦右衛門
今山吉之丞
栗原喜右衛門
岡伴之丞
宮尾平六
東條市之丞
白井与五兵衛
三浦孫助
保田新之丞
河合十右衛門
加藤安右衛門
松原八郎之丞
吉田彦右衛門
中村吉右衛門
永井清兵衛
本沢源之丞
富田俊右衛門
河村市右衛門
古橋久兵衛
小田切源七

歩行並

同　新太郎
小林丸太郎
山路茂吉
同　沖太郎
田原太右衛門
河島喜兵衛
下川藤太郎
井上卯之丞
三宅与太郎
和田茂之丞
河野角太郎
木原武之丞
岩尾善三郎

河村伴也
古田了訴
田中策賀
木村新夫
小野松悦
大橋玄賀
真木吟仙
井沢了依
坂本善賀
篠原智悦
深尾三智
田村新悦
同　安哉

料理人

高橋久左衛門
山中又右衛門
寺澤左太夫
黒田武助
菅谷忠右衛門

船頭

林孫三郎
小池甚兵衛
伴谷又右衛門
仲谷伝太夫
浅利源右衛門
長崎九郎右衛門

笠田金三郎組小頭
池森竹右衛門

西谷善右衛門組小頭
下川藤右衛門

幸田重右衛門組小頭
小池吉右衛門

美川吉三郎組小頭
平山市右衛門

美濃部三郎組小頭
松本久之丞

舟越与右衛門組小頭
松本三郎右衛門

江戸屋組小頭
小野兵左太夫

小人組頭

一 五拾八人

小頭並

深川小頭並

小人組人

〃

品山太之丞
宮矢多蔵
佐藤傳之丞
村藤源太郎
河野万太郎
田口米太郎
戸田与左衛門
宮谷庄七
小幸源太郎

小十部屋人

山口吉之丞
浮島寿之助
以田金左衛門
井上新之丞
河野孫次郎
石川小太郎
秋谷新太郎
山本傳四郎
山口保太郎

小役人之頭

沢岸久之丞
香川甚八

井沢五右衛門
御厨伝右衛門
竹内仁之丞
跡部新四郎
山崎彦作
杉村久三郎
飯塚由右衛門
松尾八右衛門
小野仙右衛門

# 戸倉家

天正十七己丑年正月十五日家康公於
駿府知行高三百石下シ置候
御感状頂戴仕候
文禄元壬辰年八月廿三日知行高千石
地方ニテ被下置御感状並頂戴仕候
内百三千石大里郡村々之内
三百石守山堅田村之内五ヶ所村
右之同　村

元祖
戸倉織部
行重

慶長十二丁未年五月廿七日家督
宗遠ニ而御字浦家康公より
御知八本ニ而

二代目
同織部
重之

三代目
日　六郎兵衛
庸重（朱：庸）

延宝元癸丑年八月九日
御家督被下候、後百人扶持被下
置

四代目
日　外記
範重

元禄十五壬午年六月四日
其後家業遂知行高五十石被下
置御家督被下
任候

五代目
日　外記
惟重

正徳元辛卯年七月十二日
其後知行高五十石家業遂候て
御家督被下
候

六代目
日　六郎兵衛
重好

享保二丁酉年六月廿四日知行高
五十石家業遂候て御家督被下
候

七代目
日　外記
純庸

享保十五庚戌年八月十三日
家督（朱：智）知行高五十石被下置
寛保二壬戌年七月二日御家督被
仰付

八代目
日　六郎兵衛
庸久（朱：貞）

宝暦五丁亥年七月十二日家督
知行高五十石被下置、當分人数扶持ニ
任候
同六丙子年四月廿日御家督被
仰付

九代目
日　六郎兵衛
重縣

明和八辛卯年七月十五日家督（朱：智）其
後遂知行高五十石被下、御家督
御譲り被下、扶持ニ任候
天明八戊申年三月二日御家督被
仰付

十代目
同 織部

寛政元己酉年十二月廿六日
家督無相違高五百石被下之
御中奥御番入被仰付之席ニ被仰付
同五癸丑年十二月廿九日御家老
仮り御家老ニ被仰付
同九丁巳年四月廿六日御家老加役
ニ被仰付

十一代目
同 隼男

寛政十戊午年五月十六日家督
御請ニ被仰付高五百石家老
之ゟ御用人上席ニ被仰付

寛政十一己未年十一月十五日家督
御請ニ被仰付高三百石被下置
御用人上席ニ被仰付
文化四丁卯年九月十六日御家老役
ニ被仰付

十二代目
同 織部
重威

一元祖元倉伊右衛門始重ニ而候播州明石様ニ別而御小姓
ニ而家中拾人扶持ニ而召抱ニ相成手附御小姓ニ而候付ニ織田信長
公之御時代より長州毛利輝元押之而其節ニ而
太郎左衛門ヲ乞未羽柴筑前守秀吉公ニ被為
よりて重高の知行扶持ニ而候ニ而在陣勤
一元亀三壬申年正月十六日太伊右衛門相生出生
一天正八庚辰年正月十六日生年九歳ニ而
御家中ニ相成候
一同十四丙戌年正月十六日前々之通り手附并御家老
一同十七己丑年十八歳ニ而知行高三百石ニ被仰付
とらし
一文禄二癸巳年二十三歳ニ而御用人ニ被仰付
手附并二十四歳

一 綱之様御解国中ニ御座候節御渡被成候
御重縁被為在候ニ付被為遊御姉小姫様御抱
ニ而被遊候処戸倉伊右衛門ト申者御座候
右者兼而御覚悟御座候ニ付殿様御窺之処
御召出被為在候ニ付御座候ニ付御取立被遊
御伊右衛門と申者ニ而御座候ニ付盛御取立
候処右ニ付御座候

一 但家者天正十七年御召出候戸倉
伊右衛門家並戸倉家上下共之見之文書
ニ御座候趣御座候
本御座候御家綱公御家中ニ御座候益田右
慶長六年之

# 益田家

御先祖之儀ハ代々御家之ハ本家
相州之以来右衛門を代々相勤候
益田家ニ付毛利御家来ニ而
御家老之儀ニ付
御二代目ニ而本姓益田ニ相改

元祖
益田主殿
本国阿州初八郎ト云

早世ニ付
之跡ニ而御姫様ニ相成候孫
之婿養子五郎兵衛御妹二人之内
相続ニ而御書付之ニ三代目ニ御座候

同
監物

知行之儀ハ御家老之儀本家
御元祖七九郎ニ二代目鉄郎并男之主殿
右之儀女御実母兼而御座候三代目ニ御座候
之妻

同
主殿

之庭男之初ゟ名代後金十両ト云書ハ三代目
很打母女之
知り候ゟ可ゟ申候ゟ先ほお部し
婦人何成方也
八郎金之助男之三代目户金ゟ申ゟ子ヽ成候
部分候ゟ…手五人抱お…
女子部分…後内長病出無書…由之…
加内中村…ゟ婦
…ゟ…出…
…戸金…お…候之…三代目…廿人…
…加…五十人…

元文三年年二月ゟ云名跡
相續…後切年…二十人…
…七代目户金職…二男…二両…
云

…二代目…
…
…
…

日　金之丞

日　平馬

日　金之丞

平馬家ハ…内…八…之
一西尾…人…年…
…四代目户金…
…年馬…
旧里ニ帰ル

六

毛利兵馬
森小八郎 系図

- 毛利伊勢守高政
  - 森九郎左衛門
    知行千石
  - 勘右衛門
    - 勘之丞
      別家三百俵ニテ
    - 源之助
      兄ヨリ二百石分
      家断絶
    - 勘十郎
      - 伊織
      - 小三郎
      - 小八郎
  - 摂津守高盛
    - 数馬
      初源八
      三百俵ニテ
      五百石
      - 数馬
      - 四郎之丞
      - 治郎八
      - 兵馬

高政公御廟堂石燈籠献備

戸倉外記

益田金之丞

〆益田六郎左衛門

貫川長之丞

関十左衛門

〆西尾久左衛門

岩本平左衛門

吉森源三郎

新屋勘左衛門

来宮半左衛門

〆谷川角之丞

福島九郎左衛門

佐曾儀左衛門

梶川市左衛門

〆岩本忠左衛門

右之通献備

御家老職名
御側用人御目見以上隠居料被下置候御扶持方
ニ而被下候

一　御扶持人扶持方　　御家老
　　　　　　　　　　服部三左衛門
　右同人寛文七年隠居被仰付候　但
　悴某ニ家督被下置候ニ付八百石被下
　之候処隠居料者扶持方ニ而被下候

一　御扶持人扶持　　同
　　　　　　　　　　前田主殿
　右同人延宝六年二月隠居被仰付候　但
　悴へ家督被下置候ニ付四百石被下
　隠居料扶持方ニ而被下候

一　弐拾人扶持　　　　　　　　　　　日根母

右ハ天和元酉年十一月十七日隠居被仰付候
ニ付、知行三千石之内（延）忰[illegible]ニ被下
五百石ニ而隠居料ニ被下置候

一　拾弐人扶持　　　　　　　　　　　薗田金之丞
　　御小姓組

右ハ享保八巳年十二月十二日隠居被仰付候
ニ付、忰[illegible]ニ被下
置、隠居料ニ扶持方被下置候
無之

一　拾人扶持　　　　　　　　　　　　中根左仲

右ハ延宝七未年五月十二日隠居被仰付候
ニ付、知行弐百石之内忰[illegible]
百石拾人扶持ニ而隠居料ニ被下置候

一　　　　　　　　　　　　　　　　　御番組
　　　　　　　　　　　　　　　　　　羽生澤右之丞

一
右ハ（元）文五申年江戸ニ而隠居被仰付候ニ付
知行弐百石之内忰[illegible]
被下置、弐百石扶持ニ而隠居料被下置候
江戸ニ而隠

一　限扶持
　　　　　　　　　　　　　　　　　　仕置当用人
　　　　　　　　　　　　　　　　　　東条半太夫

右同人元禄十六未年八月御預所被仰付
候処悴源之丞江被下置家督[智]寄合[鉄砲]相続三百石
跡目として本高之内三百石ニ而御張出被仰付
源之丞江も名字之事共被仰付候

一 跡格様

右同人元禄十五午年八月御預所
被仰付候 御出悴十之丞江被下置 家督[智]寄合[鉄砲]
相続之三百石ニ而出面之通御張出被仰付

御仕置御用人
西尾[石]文左衛門

一 跡格様

右同人宝永七寅年四月十九日御預所被仰
悴常吉江被下置家督[智]寄合[鉄砲]相続之三百石
ニ而御張出被仰付渡候旨被仰渡 並名
之字申付候

同
菅沼長之丞

一 跡格様

右同人正徳二辰年二月九日御預所被仰
悴格之丞江被下置家督[智]寄合[鉄砲]ニ而三百石
御張出被仰付候

同
岡十左衛門

一 跡之様

同
西尾文左衛門

右同人享保十八巳年九月御預所被仰付
候処知行高三百石之継悴十左衛門江二百
石之通御張出被仰付候

同御用人
中村喜左衛門

一 跡再様

右之者享保十七子年六月廿七日隠居
致し候ニ付、拝領仕候段、宝暦書上ニ有之
候へ共、此御品者何ニ而も相知不申候、
其外之儀相知不申候

一 銀五枚
時服袷単物之

同細工人組
古川仙太郎

右之者宝永三戌年十二月六日隠居被仰付
候ニ付被下候段、宝暦書上ニ有之、右八枚之内
五枚ハ何ニ而も相知不申候

一 銀五枚
口
谷川三郎兵衛

右之者享保三戌年六月隠居被仰付
候ニ付、御書付ニ有之候処、拝領仕候
三百三拾石ニ而相知不申候、
一ヶ年十月拝
其外三拾石減知ニ候

一
口
畑作右衛門

右之者享保七寅年七月廿二日隠居
被仰付 拝領仕候段 宝暦書上
二有之候、何ニ而も相知不申候

一 銀五枚
口
新庄部右衛門

右之者享保八卯年十月廿二日隠居被仰付
ニ拝領仕候段、弐百弐拾石之処拝領仕候
其外ニ而も相知不申候

一 帳三枚　関谷茂蔵

右ハ人享保十九寅年七月十二日隠居
形之通ニ御出ニ而當家御書付悴之節ゟ出入
二而九拾両ニ而買請候由張出申候

一 五人扶持　長瀬七太郎

右ハ人寛保元酉年正月廿七日隠居
形之通 御出孫小野寺家御書付
二百両ニ而買請候由張出申候

一 張面枚 御小袖壱　古川儀三郎

右ハ人寛延四未年正月十六日隠居
形之通 御出悴義ゟ當家御書付
二百両ニ而買請候由張出申候

御仕置用人

瑞仙
宗順
一桂
一生
松徹
入元
之
常悦
宗安
兎杖
芳山

西尾七太夫
幸田半太夫
黒川喜兵衛
西尾喜太夫
幸田半太夫
吉田十太夫
依田喜太夫
小林九太夫
三宅厳斎
森九太夫
中村喜太夫
中根右衛門
長谷川也太夫

御徒小目人

小仕置小目人兼
戸倉勇蔵事

下役

古川仙右衛門
岩本平右衛門
近藤幸三郎
相田源五郎
畑作右衛門
梶川市右衛門
岩田太右衛門
山中伍助右衛門
桑原勝右衛門
三谷岩之丞
三橋六右衛門
畑岩之丞
栗原熊右衛門
西尾岩右衛門
猪俣平右衛門
三上十右衛門
明石権之丞
長瀬七右衛門
谷川兵之丞
竹中国右衛門
黒岩宗右衛門
中村六右衛門
鈴橋市右衛門
並田勇吉
岡谷岩蔵
戸倉勇十郎
岩本平右衛門
平井勘兵衛
畑岩之助

同見習

幸田宗右衛門
高橋鎧平
黒沢弥太郎
新岩三郎

一 元文三戊午年二月十六日益田平馬[illegible]

奉行江口上書

私儀[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二月十六日　益田平馬

黒木[illegible]殿

右之通[illegible]

[illegible]

[illegible]

覚

益田平馬

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日本政府図書

[illegible]

午二月九日

一 右年十一月御用番ニ付同年同月九日
御書付を以戸倉寛蔵弟二男順次郎養
子ニ御願 作州中籠人持ニ而
御願ニ 候也

一 先代[illegible]
[illegible]
[illegible]
隠居[illegible]

内閣文庫

116

明治十五年六月十七日華族大関増勤蔵本四冊ヲ抄録ス

五等掌記 澤渡廣孝校

澤渡

国立公文書館
National Archives of Japan